

【 無料ダウンロード資料 】

社労士試験の得点アップ法

社労士試験の択一が40点台で止まる理由。直前期にやるべき「知識を線にする」最終調整

※約5分で読めます

模試や過去問で択一式で40点台が安定して取れるようになってきた。

まずは、**ここまでの努力に絶対の自信を持ってください**。中途半端な学習量で40点台には到達しません。かなりの実力がある証拠です！

しかし、「あと数点」がどうしても伸びない。本試験が近づくにつれ、そんな停滞感に悩んでいませんか？

本レポートでは、択一式40点台の実力者が、合格ライン（45点以上）突破のための「**直前期の視点の切り替え**」をお伝えします。

【結論】「過去問の暗記」から「テキストのつながり」へ

択一40点台を越えない多くの理由は、「**過去問の答えを覚えてしまっていること**」です。

過去問を5周、10周と回すうちに、断片的な知識だけで、惰性で正解していませんか？

本試験の巧妙な言い回しに対応するには、過去問の「点」の知識だけでは限界がきます。

直前期は「テキスト読み込み」を最優先する

過去問はもう十分に解けるはずです。

ここからは原点回帰し、**テキストの「横断的なつながり」を意識して**読み込んでください。

これが、曖昧な知識を「本番で使える知識」に変える方法です。

▼ 40点台で停滞する人と、突破する人の「直前期の違い」

	停滞する人 (40点台)	突破する人 (45点以上)
知識の状態	過去問の「点」の知識に頼る	テキストの「線・面」の知識がある
難問への対応	正面から悩み、時間を浪費する	即座に見切りをつけ、後回しにする

	停滞する人 (40点台)	突破する人 (45点以上)
満点への執着	<u>1科目でも多く高得点を狙う</u>	<u>満点を捨て「各科目7点」を死守する</u>

合格ラインを死守する「3つ」のこと

① 「個数問題」は後回しにする

「正しいものはいくつあるか」という個数問題は、時間を奪われます。**出題された瞬間に飛ばし**、他の解ける問題をすべて処理してから戻るのが鉄則です。

② 「組み合わせ問題」は絶対に落とさない

一見難しそうに見えますが、実は最大の得点源（ボーナス問題）です。**消去法を使えば高確率で正解肢を2つ程度に絞り込めます**。焦らず確実に拾いましょう。

③ 択一に気を取られず「選択式・労一」を警戒する

択一が40点台になると、50点を指すあまり「選択式の労一」が手薄になります。毎年、択一が高得点なのに労一の1点で不合格となります。**未出題の白書や統計など、選択式対策は最後まで気を抜かないでください。**

まとめ

択一式40点台は、合格へかなり近づいている状態です。

ここから8月の本試験までは、新しい教材に手を広げる必要は一切ありません。

今までボロボロになるまで使い込んだテキストに原点回帰し、圧倒的なスピードで読み込みを繰り返してください。

「最後は絶対に諦めない気持ち」が最後の合否を分けます。

下記の記事で、択一40点台からの詳細な勉強法、テキストの読込方法などを書いています。

参考になる内容ですので、ぜひご覧ください。



参考記事はこちら

クリック→[【社労士 択一 40点台！】ここからが合格までの勝負どころ](#)

クリック→[【社労士試験の直前期】これまでの総復習とテキスト重視にすべき！](#)

しゃろうむ